

令和 4 年度 東北支部研究発表会—9 セッション計 45 編の研究発表

東北支部総務企画委員会

1. はじめに

東北支部では会員が研究成果を発表し、会員間での情報共有と議論する場として例年 3 月に研究発表会を実施している。今年度は令和 5 年 3 月 5 日（日）に開催した。会場の様子を 9 名の司会者から報告していただいた。

2. 各セッションの様子

【1 復興支援】司会：古藤浩（東北芸工大）

このセッションでは人と組織に焦点があたり、復興支援員、地域おこし協力隊、非営利民間復興支援団体、手仕事に関するコミュニティビジネス、学生によるシャレットワークショップなどの被災地での活動の課題や将来性についての発表と討論がなされた。活動が活発な期間が、震災後すぐか、数年経ってからかと相違があり多様性を感じた。

【2 住民生活・生活再建】司会：河村信治（八戸高専）

セッション 2 では、震災から 12 年の住民生活（住まい・生業・コミュニティ）の再建や高齢化といった課題に関して、それぞれ地道なアンケート調査を軸とする研究発表がなされた。対象地域も岩手県沿岸の小自治体、宮城県の一部市、そして福島県の原子力被災地、と各地の被災特性が異なる中で様々な復興過程と課題が共有された。

【3 防災・安全・密集市街地】司会：小地沢将之（宮城大）

残念ながら 1 題の欠席があったが、被災地の防災意識、市街地建築物法以前の県による建築制限、犯罪抑止のための矯正就労支援情報センターの役割、住宅市街地整備事業後の課題について発表があり、活発な質疑が行われた。いずれもより精緻な分析を行うことで、安全安心な社会づくりに十分に貢献できる内容であった。

【4 交通政策・行政・地域自治組織】司会：荒木笙子（東北大）

デマンド型バス、MaaS 事業、個別施設計画、津波被災地の地域自治組織、原発被災地の自治体職員に関する計 5 題で、東北地域が主な対象地であったが、過疎や高齢化など全国的にも関心の高いテーマが発表された。質疑においては今後の研究発展に期待する励ましの声を多くいただき、参加者同士で刺激し合えるセッションとなった。

【5 立地適正化計画・居住誘導・広域計画】司会：松川寿也（長岡技科大）

地方都市での市街地再開発事業の現状、コンパクトシティ政策の評価、立地適正化計画による施策の現状、広域連携とマスタープランについての研究報告がなされた。これら研究報告に対しての質疑では、市街地再開発事業のボーナス要件、

集約先となる市街地での居住者特性、上越市の誘導施策等について活発な意見交換がなされた。

【6 中心市街地活性化・デザイン・空き家・空き店舗活用】

司会：村上早紀子（福島大）

中心市街地を取り巻く空き店舗をはじめとした空間活用や、それを動かすまちづくり会社の取組に関して最新の実態が提示された他、中心市街地活性化施策の今日的課題に関する詳細な分析や、市民の関わりを実践的に把握した研究もみられた。最新トピックを研究背景とし、今後の展開に繋がる可能性が窺える多面的なセッションとなった。

【7 農村・景観・歴史・観光まちづくり】司会：山口邦雄（秋田県立大）

地元食材を活かした開発商品での地域活性化、農村集落の持続性のための関係人口の取り込み、自然公園内の空き家実態と管理の展望、茅葺き民家保存事業の取組み実態について報告があった。行政サイドの取組みの限界を地域力で補っていこうとする論調が共通していた。これに加え、SDGs の都市政策についての報告もあった。

【8 防災・災害時避難】司会：高澤由美（山形大）

セッション 8 では防災・災害時避難に関する発表が行われた。出水等に対する災害危険区域指定に関しては災害危険区域の実態、及び事例調査により建築立地動向が報告された。また津波避難行動、津波避難施設などに関する研究では調査票調査や GIS 等を用いた分析結果が報告され、今後のリスクを軽減するための研究課題や展望が議論された。

【9 土地利用規制】司会：川崎興太（福島大）

太陽光発電施設の自主条例による立地コントロール、特定用途制限地域による非線引き白地地域の居住誘導、非線引き都市の居住誘導区域内残存農地、40 人/ha を下回る限界市街化区域、市街化調整区域縁辺部の駐車場に関する 5 本の研究発表が行われた。発表者と参加者の間で活発な意見交換が行われ、有意義なセッションとなった。

3. まとめ

南支部長の開会宣言の後、最新の魅力的な研究成果が発表され、日曜午後であったが 70 名を超える参加者が集まった。古藤副支部長の閉会のあいさつでは、リアルな会場に集まったの発表はできなかったものの、東北支部管内で都市計画を学ぶ学生、研究者が情報交換する意義が確認された。今年は学会全国大会が支部管内の盛岡で開催される。全国の会員に東北支部の魅力をお伝えしたいと誓い合った。